人材育成ゆふいん財団ニュース

Vol. 91

The Yufuin Human Resource Foundation NEWS　since 1991

世界文化遺産の水原華城で韓服体験　（韓国訪問）

箸づくり体験後、職人のみなさんと記念写真　（由布市で受け入れ）

【特集】

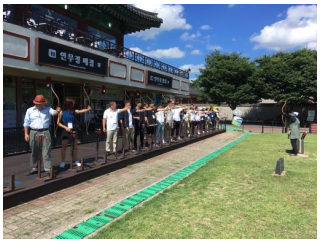
第１６回　ゆふいん～アジア　ふれあい交流

「日韓交流の旅　LET'S GO & WELCOME」　２０１８年７月２９日（日）～８月１１日（土）

第１６回ゆふいん～アジアふれあい交流「日韓交流の旅」は由布市と水原市（韓国）の子どもたちがお互いの国を行き来し、全６泊８日間にわたって共にふれあい、それぞれの地域の文化・歴史・環境などについて学びながら交流を深めました。５月末から湯布院地域在住の中高生と由布高校生を対象に自治分配と学校を通じて公募を実施しました。８名の定員に対して１７名もご応募いただき、作文と面接選考を経て、湯布院中学校３名・由布高校３名・豊府高校２名が選ばれました。これまでは訪問と受け入れを別の時期に開催してきました。しかし、今回は初めて夏休み期間中に訪問と受け入れの両方を行いました。訪問と受け入れの間隔は１週間しかないため、交流に向けて同時に準備を進める必要がありました。色々大変なこともありましたが、同時期に実施することで日本と韓国の参加者が仲良くなり、言語の壁を乗り越えて一生懸命コミュニケーションを取ろうと頑張っている姿が印象的でした。この活動を通じて、国境を越えた友情が育まれ、豊かな人生観や共に生きる国際性を養う交流となりました。

1　LET'S GO TO KOREA

訪問：７月２９日（日）～８月１日（水）
往路／水原市（韓国）で３泊４日の旅



錬武台で弓矢体験。
１人１０射しました。

修練館で楽しいゲームタイム。
いろんな遊びができました。

VR体験に夢中です。

最後の夜は一緒に焼肉。

2　WELCOME TO JAPAN

受入：８月８日（水）～８月１１日（土）
復路／由布市で３泊４日のおもてなし

写真のスポットを探し、ミッションをクリアするという特別な散策でした。由布院駅の足湯で。

水をテーマにした環境ワークショップ。各チームが作った川や町を最後につなげました。全ては水でつながります。

男池でお弁当。飲み水は男池の湧き水でした。

箸屋一膳で箸づくり体験。
思い出の箸ができあがりました。

こども 参加者の変化

１００％
韓国人は「やさしい」

◆韓国と韓国人に対するイメージの変化◆

※実施前と実施後に「韓国・韓国人に対するイメージ」というワークショップを２回行いました。現在持っているイメージをそれぞれ書き出してもらい、２回目には１回目のワークショップとの変化を見比べてもらいました。

平成３０年６月２４日	平成３０年８月１９日
・韓国について７４意見。 ・韓国人について６４意見。 ・韓国といえば「K-POP」「アイドル」「食べ物が辛い」「キムチ」などの意見が多かったです。 ・韓国人といえば「声が大きい」「服が派手」「かわいい／かっこいい」「肌が白い」という意見が多かったです。	・韓国について５４意見。 ・韓国人について９２意見。 ・事後の意見は新しい意見が多く、イメージが具体的になっていました。 ・参加者によってイメージの変化は異なりますが、肯定的な意見が多かったです。特に韓国人について８人全員が「やさしい」と述べました。 ・１回目の意見をそれぞれ評価してもらった結果、国に対してはあまり偏見はなかったことがわかりました。また、「派手なものが好き」「服が派手」「服装が明るい」「負けるのが嫌い」「サングラス」といった韓国人に対するイメージはただの偏見であったことに気づきました。

１００％
プログラムに満足する

０％
韓国人や韓国文化にネガティブな感情を持つ

１００％
韓国語（他言語も）学習のモチベーションにつながった

１００％
友達にこのプログラムを進めたい

87.5％
進路や学業における目標設定に役に立った

※平成３０年８月１１日に行った日本人の参加者８名への事後アンケート調査結果

参加者の感想

※実施前には、言葉や習慣の違いに関する不安が多くありましたが、訪問後と受け入れ後の感想文から不安に思っていたことは実際には大したことはなかったことがわかりました。

◆ 韓国について初めに思ったことは、「すごい」のただ一言です。何がすごいかというと言葉で言い表せないくらいすごかったです。
◆ 文化の違いはあっても、それに合わせることは全然苦にはなりませんでした。「暑い」「涼しい」「面白い」など韓国語を覚える度にほめてくれたり喜んでくれたり、みんなと過ごす時間やペア家族と過ごす時間がとても大事で幸せな時になりました。
◆ トッポギがすごく辛くてびっくりしました。でも辛くても平気で韓国の人は食べていたのでもっとびっくりしました。
◆ 私は韓国は好きだけど韓国語はしゃべれないし、ハングル文字は読めません。けれど友達の韓国人はひらがなが読めて普通に会話ができました。私は本当に驚きを隠せませんでした。自分と年は変わらない男の子が違う国の言語をスラスラしゃべっている…ものすごいショックを受けました。そしてしゃべれない自分がとても恥ずかしく思いました。
◆ 「これからはグローバル社会になるから、違う言語も必要」これは私が通っている学校で毎年言われていることです。この言葉を今までは聞こえないフリをしてすごしてきました。けれど今回の活動で言葉の意味を嫌というほど知ることができました。他の国の友達と他の国の言語でたくさんしゃべることができたらどれだけ楽しいだろう…そう思えることができただけでも今回の活動に参加した意味はあったと思います。
◆ この経験を活かして韓国だけではなく、他の国の人々と交流していきたいです。
◆ まさか自分の家に韓国人の友達が来るとは昨年の私からしたら考えられなかったです。
◆ 私が今回感じたことはやはりコミュニケーション力は大事だということです。どんなに韓国語が分からなくても、必死に意味を理解しようとし、みんなとコミュニケーションを取ろうとすれば、意味は伝わるし、みんなと仲良くなれると思いました。今回の事業で韓国の文化や言語への興味が一段と大きくなったので、本気で勉強しようと思います。
◆ 久しぶりに韓国の人たちと会うことができてとてもうれしかったです。韓国の人たちはみんな優しくて、会ったらすぐに話かけてくれました。
◆ 韓国の水原市がとても都会で、湯布院はそれに比べるととても田舎なので心配でしたが、自然の良さにふれてとても楽しそうだったので案外良かったかもしれないと思いました。
◆ これぞ田舎！というところを見せることができたのでよかったです。
◆ みんなでゆふいん散策をしたり男池に行ったり夢大吊り橋に行ったり、活動も仲良く楽しくできたし、みんな楽しそうだったので100点だと思います。
◆ とてもさびしいけど、韓国の人たちと韓国と日本で楽しく過ごし、思い出をたくさん残すことができてよかったです。また会って遊びたいです。
◆ 今日で最後なんだなぁと思うと、時間が少しでものびればいい！と思ってしまいました。今まで交流したことのなかった韓国の方々と楽しい思い出を作りながら、いろんなことを体験できたことは私の将来にも何か変わるものがあるのかなと思いました。とてもよい思い出、忘れられないものができました。たくさんありがとうございました！

おとな 保護者の変化

１００％
ホームステイ受け入れて「よかった」

保護者の感想　※11月～1月に行われた保護者アンケート調査結果

◆ 事前にして下さった勉強会などを通じて言葉はもちろん一緒に参加する方達とのコミュニケーションづくりもして下さったので、本人はもちろん保護者も安心して送り出すことができました。
◆ 海外旅行の経験がない子どもたちにとっては、より広い視野で物事を考えるきっかけとなったと思います。保護者の立場としては、お互いの文化の違いを理解し、また、そのために生じる問題もはっきりと意見を主張して解決を図ることの重要性を認識させられました。
◆ 子どもは韓国のK-POPが好きで、韓国のファッションやコスメなどに大変関心があるのですが、単に異文化に対する憧れだけの気持ちから、その国の歴史や政治などに対しての感想が、以前に比べてよりバランスの取れたものへと変わりました。
◆ 日本国民の多くが、ニュースやネットによる情報で、ともすれば一方的なものの見方になってしまいがちですが、このような交流を通して相手の立場に立って考える習慣が身につけば、情報に左右されることなく、より良い解決策が考えられるようになるのではと思います。
◆ 自分たちの力だけではできない経験をすることができて、本当に参加してよかったです。
◆ 言葉の違いが不安でしたが、英単語・日本語・韓国の単語・アプリの翻訳でコミュニケーションがとれました。
◆ 外国人を身近に感じることができてよかったです。日常で観光客としての韓国人をよく見かけるが、接する事により世代間で認識の違いを感じることができました。
◆ 息子が将来の進路に悩んでいましたが、外国語を学びたいとの意識が芽生え、進学に対し具体的な意見を語るようになりました。
◆ こどもたちってどこの国の子も大差ないなあと思いました。
◆ 韓国の子が家に来ると言うだけで息子も楽しみにしていましたし、食事中コミュニケーションを図ろうと家族みんなが（韓国語ができないので）英語や身振り手振りなど努力している姿がうれしかったし楽しかったです。
◆ 参加してとてもよかった。子どもも韓国の生活、日本の生活について日本のよい文化などを見直し、それを伝えていけたと思います。
◆ 来年の１月に韓国の家族が福岡に来る予定があるそうなので、会えるといいねとつい先日娘と話していました。
◆ 仲良くなった韓国のお友達と連絡をとっているようですし、私も韓国に行きたくなったので、ますます韓国語の勉強を頑張って会話ができるようになってほしいと思います。そして親子で旅行して韓国で友達に再会できたら最高です。
◆ 子ども達は仲良くなり交流がつづいています。冬には、ホームステイにきてくれた子どもと家族が日本に来る予定です。
◆ ホームステイ受け入れは、色々考えすぎずにやってみました。なんとかなりました。やってよかったと思いました。親も子もいい体験と思い出ができました。みなさんにも是非おすすめしたいです。
◆ 言葉や風習が違うので不安だと思いますが大丈夫です。とてもよい体験になります！
◆ お子さんが１人増えたと思って受け入れをして下さい。きっと家族みんなよい経験ができるはずです。
◆ 実際に体験して肌で感じる事で子ども達の視野、興味の幅がぐっと広がると思います！
◆ 不安はあるかと思いますが、やってみるのも大切かと思います。いろんな視野が広がりますよ！
◆ このプログラムは、子どもたちにとっても保護者にとっても、大変勉強になります。異なる文化や環境、言葉の違いを越えて、人間同士がどう関わっていくのかということを、できるだけ早い段階（年齢）で体験することは非常に重要です。これから多文化共生時代のリーダーとなれるよう、是非多くの方が体験することをお勧めします。

国際交流事業の課題

- 保護者２８％ 子ども２７％ 日韓交流の旅に「興味あり」
- ８０％ ホームステイの受け入れ不可
- １１％ 両方の日程に参加したい
- ２３％ 参加費１万５千円は「安い」 ※一人当たり約１５万円財団負担
- 120万円以上 事業費は財団負担しかし寄付・支援が集まらない

※平成３０年６月上旬に募集チラシと一緒に配布した事前アンケート調査結果（湯布院中学校一回収率４０％、由布高校一回収率２４.１％）

① 事前アンケート調査から、「日韓交流の旅」への理解や認知度はまだ低いことがわかりました。
② 事後アンケートによると、日本人参加者８人のうち７人は韓国の文化・歴史に興味を持って事業に参加したことがわかりました。しかし、湯布院（日本）の文化・歴史・自然にあまり興味がない日本人参加者が多かったです。日本の子どもたちが自分が住んでいる地域のことについて関心を持つための工夫を取り入れることが必要だと感じました。
③ 今年度の「日韓交流の旅」は未来のリーダづくりを目標にし、共生・環境・川・水などのテーマでチームワーク中心の活動を行いました。湯布院を散策しながら協力し合ってミッションを達成したり、国境を越えて未来や地球のことを考えるためのワークショップも初めて取り入れました。それによって個人的な達成感だけでなく、チームの絆・団結力・達成感が生まれました。しかし、自然や環境などテーマに対してあまり関心の高くない参加者が多かったため、あまり効果的ではないと感じる場面もありました。
　いろいろな課題がまだ残っておりますが、今後も多様な人と共に生きる人づくりに取り組んでいきたいと思います。

国内での国際交流プログラム

「もっと視野を広げて、自分を、町を、そして日本を見つめよう。歴史、文化、言語、それぞれの国に異なった暮らしがある。けれども、みんな人間、みんな友だち。さあ、あなたの未来へ挑戦だ！」という気持ちで、平成１４年８月５日より国際交流事業がはじまりました。１７年間、総計１７４人の子どもたちを中国と韓国へ連れていき、海外の人や歴史、文化、生活などにふれる機会を提供してきました。

最近では在住外国人も増え、外国に行かなくても外国の人や文化にふれることができるようになりました。そこで１月に「中国・韓国料理を作ろう」という新たな国際交流プログラムを開催しました。初めての取り組みでしたが、５カ国（中国、韓国、ベトナム、スリランカ、日本）の２歳から６０代まで２０名（おとな１５名、子ども５名）が参加し、各国の話や工芸品、おもちゃ、お菓子、踊り、料理などの交流を通じて、国籍や文化の違いを越えて、子どもからおとなまでいろいろな世代の人たちがつながるきっかけとなりました。今回はAPU留学生を中心に実施しましたが、今後は近くに住んでいる外国籍の方と一緒に実施していきたいと考えています。

１月２３日（水）湯布院公民館にて
「中国・韓国料理を作ろう」の集合写真

参加者の声

- 料理が美味しくてすごく楽しかったです。
- 色んな国の人に会えてよかったです。
- 機会あればまた参加したいです。
- その国の人に料理を教えてもらえて嬉しかったです。そして大勢で食べると楽しいですね。
- いっぱい話していっぱい笑いました！素敵な企画ありがとうございました。

人材育成ゆふいん財団　掲示板

（１）一般寄付金としてご寄付をいただきました。

・峰　親則　さま（香典返しとして）　50,000円

温かいご厚意ありがとうございました。公益目的事業１・２の推進、充実に有意義に活用させていただきます。

（２）トリあう「手と手」。ユニバーサルツーリズム。

人材育成ゆふいん財団が取り組んでいるユニバーサルツーリズム事業のシンボルマーク「テトリ」が誕生しました。国籍、年齢、障害の有無に関係なく、誰もが手と手を「トリ」あえる社会を目指したいという気持ちを込めて作られたものです。手と手を取り合い、みんなが安心して過ごせるまちをともにめざしませんか。

由布百景

朝霜の小道
（平成30年12月）

編集後記

入社してから８ヶ月立ちました。過去の財団ニュースを読みながら、１７年間取り組んできた国際交流事業についてを調べました。財団のこれまで取り組みが、たくさんの方の寄付・想い・つながり・努力に支えられていることを強く感じています。これからも財団のため、湯布院のために努力していきたいと思います。　（編集責任者：　グエン　ホアン　ナム）

［人材育成ゆふいん財団事務局］
住所　湯布院町川上１６４７
TEL　:85−4748　FAX : 85−4759
Email : info@yufuin-zaidan.jp
HP　: http://www.yufuin-zaidan.jp

［　発行日　］　２０１９年２月２８日
［　発　行　］　公益財団法人人材育成ゆふいん財団
［　発行人　］　溝口薫平
［　編　集　］　人材育成ゆふいん財団企画委員会

ゆふいん財団　検索

みらいしんきんは人材育成ゆふいん財団の市民の実践活動への情報・ネットワーク事業を応援します
MIRAI SHINKIN
大分みらい信用金庫
URL http://www.oitamirai.co.jp/